

植物多様性センターの「2つのラセイタ」

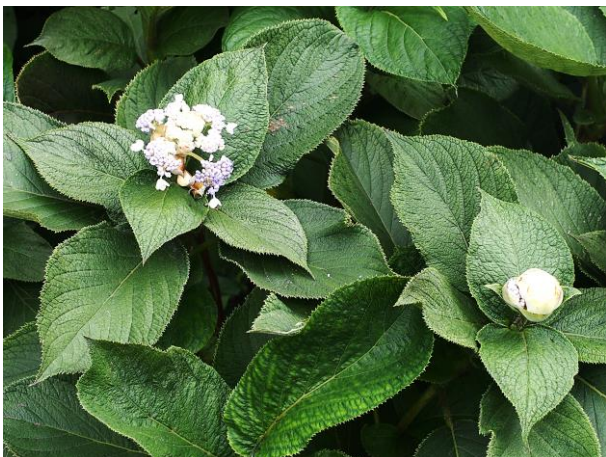
ラセイタとはポルトガル語の raxeta、ラシャに似た毛織物で地が薄く粗い手触り。羅背板とも書きます。当センターではラセイタソウとラセイタタマアジサイの2つのラセイタが見られます。名の由来は共に葉が分厚く触るとザラツキがある感触をラセイタに例えました。ラセイタソウはイラクサ科、ラセイタタマアジサイはユキノシタ科と科は違いますが葉を触った感触はよく似ています。共に日本固有の植物で、特にラセイタタマアジサイは本土のタマアジサイの島嶼変異型で伊豆諸島の固有種です。島では本土の倍程の大きな葉を付けます。



ラセイタソウ、ざらつく葉の表面には毛がある(右下)



ラセイタタマアジサイの花周りにつく白い花は装飾花



ラセイタタマアジサイの葉は長さが幅の1~2倍



タマアジサイ(本園)の葉は長さが幅の2~3倍